



## 脳神経内科からのご案内

### 長時間ビデオ脳波モニタリング検査がはじまりました

～てんかんの診断やてんかん外科の適応評価に患者さんをご紹介ください。～

てんかんとは大脳の神経細胞の過剰な興奮に由来し、繰り返すてんかん発作を特徴とする慢性の脳疾患です。てんかんの有病率は1%程度とされ、近年では若年者に限らず、高齢者にも多くみられ、コモンな脳神経疾患の1つです。てんかん発作は抗てんかん薬で約7割はコントロールされますが、残り3割は薬剤抵抗性（難治）です。各種診断技術や手術の進歩で、難治の患者さんで適応のある方には、てんかん焦点切除による根治術やデバイスをを用いた迷走神経刺激による緩和治療といったてんかん外科手術が可能になっています。てんかんの的確な診断やてんかん外科手術の適応の評価に長時間ビデオ脳波モニタリング（VEEG）は欠かせない検査です。VEEGは、個室でビデオと脳波を同時に計測して、てんかん発作時の症状や脳波を記録したり、発作が無いとき（発作間欠期）のてんかん性放電を脳波で記録する検査です。世界のてんかんセンターで標準的に行われ、本邦でも保険診療として認められています。当科では2020年11月からVEEG検査が本格的に始動しました。主に①てんかんの的確な診断、②難治てんかんの術前評価、③高齢発症てんかんの精査の目的でVEEGを行なっています。①では、病歴からはてんかん発作なのかははっきりしない場合にVEEG検査を行います。発作が記録できれば、てんかん診断の確定や発作型の診断に役立ち、てんかん発作と非てんかん性心因性発作の鑑別が可能です。発作が起きない場合でも、豊富な脳波データから発作間欠期のてんかん性放電が記録でき診断に有用となります。②の難治のてんかん患者さんでは、てんかん焦点切除による根治術や迷走神経刺激による緩和治療の適応を評価するために、積極的にVEEG検査を行っています。発作時のVEEG検査結果、3テスラMRI、FDG-PET検査など世界水準の包括的な評価から、脳神経外科と合同カンファレンスを行い、てんかん外科手術の適応を評価します。③の高齢発症てんかんの患者さんでは、てんかん発作のためにまばらな物忘れなど、認知症と間違われるような症状を呈する場合があります。また認知症の初期症状としててんかん発作が出現することも明らかになってきました。このような患者さんで1泊2日のVEEGを施行し、睡眠中に多いとされるてんかん性活動を記録することで的確にてんかんを診断し、抗てんかん薬による治療に結びつけています。

VEEGの具体的な方法としては個人用病室に入院して頂きます（検査中の個室料金の患者負担なし）。通常の脳波記録をビデオと同時に長時間連続して行い、薬剤抵抗性（難治）てんかんの場合は普段起こる発作を記録し、映像と脳波を分析します。期間は通常は1泊2日～数日、必要時は1～2週間程度の長期になります。それまで内服している抗てんかん薬を減量して、目的を持って発作を起こりやすい状態にすることがあります。検査終了後は結果に応じて、抗てんかん薬の投与量を調節します。

本検査では、①発作が起こった際の患者さんの安全を確保するため、②検査で多くの有用な情報を得るためにご家族に付き添いをお願いしています。付き添いの方には患者さんと同室でお過ごしいただき、患者さんに発作が発生したらスタッフにお知らせ頂くようお願いしています。

てんかんの診断にお困りの場合や薬剤抵抗性（難治）の場合の手術適応につきまして、お気軽に患者さんをご紹介いただければ幸いです。VEEG検査の導入で兵庫県でも世界水準の包括的てんかん診療体制が整いました。包括的診療から患者さんにとって最適な治療法をてんかん専門医が提案いたします。本検査の相談については脳神経内科てんかん外来（月、火、木、金）宛てに紹介状の持参をお願いいたします。

2020年11月より本格始動した  
▼ 長時間ビデオ脳波モニタリング（個室利用）



連絡先

TEL: 078-382-5885（受付時間 9:00～17:00）  
脳神経内科 医局